

平成27年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
教務部	校務の円滑な運営を図る	主任会を通して他分掌との連携を図り学校行事の円滑な運営に努め、学校の活性化を図る。	毎月2回以上主任会を開催する。	3.8	3.8	<p>・28年度募集定員より2クラス(80名)となる。それに伴う教育課程やコース編成の見直しを主任会を中心に行っているが、なかなか進んでいない。今年度中には新入生の3年分の教育課程・コースを決定しなければならない。</p> <p>・1学期末より定期考査の開始時間を10分早めた。年度初めには遅刻者も出たが、その後は定着してきたようである。来年度以降も考査期間中は現在の日程で実施していきたい。</p> <p>・学校だよりの内容等を再検討する必要がある。</p> <p>・昨年度末より朝読の時間をSHR前に行っているが、今後も継続していきたい。</p> <p>・行事等による授業のカットについては、機械的に行うのではなく、全体のバランスを見て行う必要がある。ただ、講師の先生等の都合もあり、検討が必要である。</p> <p>・毎年シラバスを作成しているが、計画的な学習指導を行うために、その利用法を再検討する必要がある。</p> <p>・ICTを利用した指導法の研究について目標を上げているが、公開授業等実施することができなかった。今後ICTの利用と同時にアクティブラーニングについても校内で研修する必要がある。</p> <p>・保護者アンケートにもあったが、トイレ掃除等、ゆきとどいていない場所があるようである。</p>
		職員朝会の伝達がスムーズに行えるように、白板の工夫をする。	2日分の日程を書き込み、見やすく工夫をする。	3.8	4.0	
		生徒の実態を踏まえ、学期毎の追考査・補講に取り組む。	学年末の追認考査及び追認補講の撲滅に努める。	2.5	2.7	
	授業の充実に努め、学力の向上を図る	行事の精選や時間割の調整・変更をおこない授業時間数の確保に努める。	1単位あたり30時間以上の実施授業時数を確保する。	3.5	3.7	
		シラバスを作成し、より充実した内容への点検作業を実施する。	年度末までに次年度分を作成。各学期終了後点検。	2.8	2.7	
		生徒の学力の実態を把握し、より実践的な授業研究に努める。	公開授業を年間を通して行う。	3.0	2.8	
	生徒の進路希望に対応できるコース制を研究する	生徒の進路希望や実態を取り入れた教育課程を編成する。	7月中旬までに終了	3.3	3.0	
		魅力あるコース制の研究に努める。	年間を通しておこなう。	3.0	2.8	
	PTA・地域社会との連携をはかり教育効果を高める	地域社会及び中学校との連携を深める。	随時	3.5	3.3	
		HP・学校だよりを利用して学校のPRに努める。	随時更新を促す。学校だよりを毎月発行する。	3.0	3.7	
		PTAとの相互理解を深め、活動の活性化を図る	各種行事の参加案内を3週間前に配布する。	3.5	3.2	
	教職員の各種研修・研究を推進し、教育活動の活性化を図る	各種職員研修や報告会を定期的に開催する。	教務、生徒指導、保健相談に関わる研修会を各1回以上おこなう。	3.5	3.5	
		各種研修会と、研修の充実に努める。	学期に1回は行う。	3.3	3.3	
		ICTを利用した指導法の研究に努める。	各教科公開授業を行う。	2.5	2.7	
	読書活動の推進と図書館の充実に努める	「読書の時間」等を通して、生徒の読書量を増やしていく。	毎日「朝の読書」を実施する	3.8	3.8	
生徒の興味・関心を促すような図書を購入し、図書館の充実に努める。		年2回希望図書の購入をおこなう。	3.5	3.7		
環境美化	掃除の徹底	学期に1回は必ず掃除箇所点検をして掃除用具の補充を行う。	3.8	3.5		
	掃除監督の徹底	生徒会の委員会活動を利用して掃除監督者との連絡指示を徹底する。	2.8	2.8		
	ゴミの分別	毎日、係の美化委員で整理する。	3.5	3.0		
施設・設備	掃除用具の整備、点検	各学期ごと、最後の清掃で整備点検する。	3.5	3.3		

平成27年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	容儀指導の徹底を図る。	月1回の一斉容儀検査を実施して、粘り強く指導を行う。	3.7	4.0	・通常の容儀検査とは別に、茶髪生徒に対して頭髪検査及び経過観察を毎月行うようにしている。 ・JR乗車指導は他の高校と協力して、7回行った。 ・毎考査の試験準備期間で生活委員による「あいさつ運動」を行った。 ・毎考査時の郊外巡視(放課後)は多くの先生方のご協力により、効果を上げた。 ・ポスター作成や生活委員の呼びかけにより、通学路の空き缶ポイ捨てが減ってきた。 ・3学期に財布の盗難があった。 ・来年度から自転車保険(任意)への加入を徹底する。※あいおい損保(年間1000円)
		公と個の場面を理解して、自らの行動を律することができるようにする。	集会時の整列・美しい容儀について全職員一体となって指導を行う。特に、私語厳禁を強く打ち出す。	3.3	3.8	
		時間厳守指導の徹底を図るため、全職員が授業の開始時間を厳守する。	毎授業時に行う。	3.3	3.0	
	公共心の育成	乗車マナーの向上を図るため、JRおよび島鉄の乗車指導を徹底する。	年間10回の乗車指導を実施する。	3.0	3.0	
		学校周辺の商業施設での利用マナー等の指導を強化する。	定期的に巡視等を行い。地域関係者と交流し、情報を共有する。	3.0	3.0	
	生活委員会の充実	挨拶の励行を図るため、職員・生徒が一体となり挨拶運動を推進する。	年8回、生活委員・各部リーダーと一緒に登校指導をおこなう。	4.0	4.0	
		駐輪場の整理整頓および安全確認に努める。	月1回生活委員で駐輪場の整理整頓および二重ロックの確認を実施する。	3.0	3.0	
	分掌・学年等との連携	生徒の実態把握と理解を深めるため各学年・分掌との連絡を密にし、指導の強化を図る。	各学年主任・分掌主任と毎月1回は会合を持つようにする。	3.0	3.8	
		学年・分掌と協力して、リーダーの育成を図り、生徒の自主性を育む。	リーダー研修会、体育祭・文化祭において、学年・生徒会と連携して実施する。	3.0	3.0	
	進路指導部	学習の定着と基礎学力向上	・進路希望調査実施と学力向上につながる補習・学習会・模試の実施	・進路希望調査を年3回実施 ・モートレ、補習、模試の有効活用、夏季学習会と冬季学習会の実施 ・各学年・教科と連携をとり、学力検討会を実施 ・学力検討会を3回、志望校検討会を2回実施	3.4	
・進路実現のため全職員による進路体制の確立			3.0		3.0	
・モートレ、補習、土曜日・長期休業中の学習会で学習習慣の定着			3.0		3.3	
個々の進路意識の高揚		・学年・進路別集会、進路講演会・進路ガイダンスの開催	・講演会やガイダンスを学年ごとに年2回づつ開催 ・小論文・教科の添削指導 ・受験前に5回以上の模擬面接 ・進路説明会・職場見学への協力	3.2	3.3	
		・ファイナシステム等の成績分析を通じた進路相談		3.0	3.0	
		・2年次でインターンシップを実施し、職業観を育成		3.4	3.8	
		・個に応じた小論文・面接・教科指導等の計画実施		3.0	3.3	
進路情報の提供 進路室の有効活用		・進路希望を把握し、適切な進路情報の精選と迅速な提供	・各クラスに進路に関する情報誌等を年6冊配布 ・ファイナシステムなどにより担任に学期に1回資料提供 ・「進路だより」の年4回以上発行 ・定期的な資料の更新と掃除の徹底	3.2	3.4	
		・『進路だより』等で情報の提供を行う。		3.4	4.0	
		・模試データ等を分析し、学年や教科と情報の共有・有効活用		3.2	3.6	
	・進路室のデータの系統的整理整頓	3.0		3.0		

平成27年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
生徒会指導部	自治能力の育成	他校生徒会との交流を図る。	年に1回以上、他校生と交流する機会を設ける。	2.2	2.5	各行事とも、生徒会総務を中心に、スムーズに運営ができた。 年度初めの研修(千々石)の他、8月と12月に校内でリーダー研修を行い、リーダーとしての意識を高めることができた。 部活動再編 予算配分の検討(長期的な視野での) 部活動顧問会申し合わせ事項の検討
	活動の活性化	挨拶を励行し、生徒会スローガンの実現へ向けた取り組みを行う。	学年・生徒指導と連携を図り、挨拶運動を実施する。	3.7	3.7	
		各行事がより活性化するように内容を工夫し、スムーズな運営に努める。	前年度の内容を1つ以上改善する。	3.7	4.0	
		各種委員会において、具体的な活動内容を定め、各分掌と連携しながら取り組む。	取り組む内容を具体的に2つ以上決め、目標について全校生徒に周知を図る。	3.2	3.0	
		入部状況の調査を定期的に行い、各学年と連携して、無所属生徒の部活動編入の場を設ける。	4月、9月、1月に実施。	3.7	4.0	
		学校HPを活用し、生徒会活動や部活動の広報に努める。	随時更新する。	3.2	3.5	
	活動等の見直し	部室の使用状況を定期的にチェックし、部室を適正に使用するよう指導する。	年間5回部室の使用状況のチェックを行う。	3.5	3.5	
会則・内規・申し合わせ事項の運用状況を確認し、必要に応じて見直しを図る。 また、長期的な展望に立って生徒会予算を編成する。		2学期終了までに部内で検討を行い、3学期の部顧問会・職員会議に諮る。		4.0		
保健相談部	規則正しい生活習慣の確立	自己管理能力の具体的な手だての実施	『保健便り』を年間9回発行し、啓発する。	3.6	3.8	転倒防止のため段差がある箇所にプレートを設置した。 カウンセラー室の一部模様替えした。 2年生は今年からシグマ検査からMG検査に変更した。 年度末に心理検査結果・掲示区分プレートを回収予定。 特別支援教育支援員の配置により移動補助・授業補助の支援が行き届くようになった。 日本学生支援機構予約奨学生27人
		健康診断の事後指導の徹底	該当生徒の保護者への連絡を徹底する。	3.5	3.6	
	安全で衛生的な教育環境の整備	救急の場合の円滑な生徒への対応の実施	校医との連携をスムーズに行い安全面の強化を図る。	3.8	3.8	
		安全衛生に対する知識と理解の深化	安全衛生委員会を2回開いて、問題点の解決を図る。	3.8	3.8	
	学校生活への適応援助活動の徹底	来談生徒への受容的態度の徹底、心を開く環境作りの実践	来室しやすい相談室となるよう心掛ける。	3.8	3.9	
		不適応生徒の早期発見・支援	日頃から担任・学年との情報共有をはかる。	3.7	3.8	
		いじめの予防・解消、各種調査の実施と分析	いじめ・悩み調査を年5回実施し、迅速な発見と対応をはかる。	3.8	3.8	
		生徒理解のための心理テストの実施と活用	内田クレペリン・MG性格検査の報告会を、1・2学年に1学期中に実施し、検査結果の活用をはかる。	3.8	3.8	
	各分掌・学年・スクールカウンセラー・保護者・中学校・外部機関	スクールカウンセラーや特別支援教育支援員との連携を強化	日頃からスクールカウンセラー、特別支援教育支援員、養護教諭、担任・学年との連携を密にし、情報の共有をはかり、適切かつ迅速な対応を行う。	3.7	3.9	
		事例研究などをすすみ、職員の共通理解を深化させる職員研修の実施	AT合格者発表後、中学校訪問を実施し、新入生に対する適切な支援・指導に役立てる。中学校訪問報告や事例研究を含め職員研修を年間3回行う。	3.9	3.9	
地道で円滑な奨学金の運営	各種奨学金の紹介、手続きの徹底	必要に応じて、生徒・保護者への説明会を行う。	4.0	4.0		
教育活動の土台としての人権教育の推進	生徒間に自尊感情・思いやりのこころを育成	2学期に講演会を実施する。適宜、機会をとらえて集会などで呼びかける。	3.8	3.8		

平成27年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
事務部	組織的取組の推進	・学校窓口としての認識（丁寧な来客・電話対応等）	随時	3.8	3.8	<p>・外壁レリーフの落下やテニスコート壁倒壊等予期せず発生した事案を基に日頃の施設点検及び整備をこれからも積極的に行う必要性を感じた。</p> <p>・全体的に節電の余地はまだあると思われるのでこれからも取り組みが必要。</p>
		・教育行政の円滑化（県教委・校内とも早期の報告・連絡・調整）	随時	3.5	3.5	
	予算執行の適正化	・長崎県財務規則に則った計画的かつ適正な予算執行に努める	随時	4.0	4.0	
	施設設備の改善	・長期的展望と生徒の目線に立った改善に努める	月に1回以上安全点検を行う	3.8	3.8	
	環境美化（対策）	・節電・ゴミの減量化・分別の広報と実践（教職員・生徒）に努める	適宜行う	3.0	3.0	
1学年	生徒指導の充実	挨拶の励行、目上の人に対する言葉遣い、適切な表現力を身につけさせ、礼儀正しい生徒を育てる。TPOをわきまえさせる。	新風・宿泊研修を中心に事後指導を実施し、1学期中に徹底させる。	3.3	3.3	<p>・学校生活全般に関して、一部生徒を除いて概ね良好である。これからは志を高く持つ指導に力を入れたい。</p> <p>良好である。</p>
		規則を守らせ、品位ある生徒を育てる。	私物を机・ロッカーの上や床に置かせない。毎日放課後巡視する。	3.7	3.7	
		時間厳守を習慣づける。	チャイムとともに授業を始める。授業中私語をさせない。授業中寝させない。	3.0	3.0	
		部活動・学校行事・生徒会活動に積極的に参加させ、学校やクラスへの帰属意識を高めさせる。	学校生活に専念させるため、アルバイトは生活困窮者を原則とし、安易な申し出は許可しない。必要な生徒は月の最初の週に手続きさせる。	3.6	3.7	
	学習・進路指導の充実	基礎・基本を重視したわかりやすい授業を心がけ、基礎学力の定着を図る。	各教科で研究授業・公開授業を1回以上実施する。	3.0	2.8	<p>不十分である。</p> <p>良好である。</p> <p>一部教科は実施しおた。</p> <p>課題として家庭学習の習慣化が必要である。</p>
		家庭学習や積極的な質問など、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる。	家庭学習調査を定期考査前に1週間実施する。	2.9	2.9	
		適切な進路情報を提供し、進路に対する意識を高めさせ、適切なコース選択をさせる。	1年間で個人面談を2回以上実施する。	3.0	2.3	
	爽やかで豊かな心の育成	素直で、思いやりにあふれる暖かい人間関係の確立に努めさせる。	総合学習等に奉仕作業を入れる。最低1回。	3.1	3.5	<p>実施予定である。</p> <p>良好である。</p>
		保護者との連携を密にし、心身共に健全な育成を図る。	欠席・遅刻の連絡は極力保護者にお願ひし、無断欠席・遅刻がないようにする。朝のSHR後毎日確認する。	3.4	3.3	
	保健・環境美化指導の充実	健康管理の徹底を図り、遅刻・欠席の防止に努める。	安易な欠席・早退等をさせない。年間出席率95%以上を目指す。	3.3	3.2	<p>良好である。</p> <p>良好である。</p>
		掃除の徹底を図り、清潔で明るい学習環境づくりに努める。公共物を大切にすることを育てる。	毎日教員は必ず監督につく。	3.7	3.5	

平成27年度 分掌・学年努力目標

[4:大変良い 3:良い 2:あまり良くない 1:良くない]

分掌名	目 標	具体的方策	目標数値また期間	前期評価	年間評価	問題点・課題等
2 学年	学習指導を充実し、学力を向上させる。	基礎、基本を重視した分かりやすい授業を心がけ、基礎学力の定着を図る。	各教科で学期に1回の研究授業を行う。	2.0	2.0	それぞれ授業の工夫はされているが学年独自に研究授業を設定することができなかった。
		家庭学習の習慣化を図るため、宅習ノートを活用する。	毎日点検を行い、できるだけコメントをつけて返却する。未提出の者は放課後居残りさせて提出させる。	3.0	3.0	家庭学習の意識づけに役だっている。
		受験に対応するために生徒の学力に応じたモートレ、学習会、個別指導等を行う。	定期考査1週間前から放課後自学を実施する。	3.0	3.0	放課後自学のあり方を考えていく必要がある。
	生徒指導を充実し、生活力を向上させる。	基本的生活習慣やマナー指導を徹底し、品位と落ち着きのある生徒を育てる	その場その場でのタイミングを逃さない指導、さらに学年集会の講話や行事等の機会とらえて行う。	3.0	3.0	この1年間で大きく成長した。
		個人面談、三者面談、保護者との連携、家庭訪問の充実。	学期1回の個人面談、あらゆる機会をとらえたちょこっと面談。問題が起こる前の保護者への連絡、家庭訪問。	3.0	3.0	
	豊かな心の育成	清掃活動の徹底。掃除の時間、係の者だけでなく清掃、整理整頓を行う。	その場その場での清掃活動、整理整頓。常時ゴミ0、放課後の机上の物品0	2.0	3.0	放課後の教室の私物整理の徹底ができなかった。
		年間皆勤賞、年間無欠席賞を設け、年度末に表彰する。	年間皆勤賞40名、年間無欠席60名		3.0	
		命の尊さや個人の尊厳を重んじる、心の教育を推進することを目的として「東冶」を実施する。	年間10回以上の実施	2.0	2.0	修学旅行の変更、延期などにより取り組む機会がなかなか作り出せなかった。
	進路指導・キャリア教育の充実	個人面談、三者面談を通じて適切な進路情報を提供し進路に対する意識を高めさせる。	学期1回の個人面談、あらゆる機会をとらえたちょこっと面談。	4.0	4.0	
		進路学習と社会技能の養成を主目的にインターンシップ（職場体験学習）を行う。	全員参加	4.0	4.0	
3 学年	日常的に命の尊さや個人の尊厳を重んじる心の教育に留意するとともに、関連した作文指導を行う。	日常的に命の尊さや個人の尊厳を重んじる心の教育に留意するとともに、関連した作文指導を行う。	月1回をめぐりにLHRの時間に命の尊さや個人の尊厳をテーマにした作文の時間「東雲」を設ける。	3.1	3.1	担任が教材を作り、6回実施した。内容はよかったが、日程に余裕と計画性がなかった。
	学力の向上と進路の実現	充実した授業の上に、生徒に応じた課題、補習、学習会、小論文指導、面接指導、個人添削等の指導を効果的に行う。生徒理解に努めるとともに、保護者との連携を確実にして進路指導を行う。	国公立大学合格者5名以上、高看合格者15名以上、就職希望者の内定率100%。 入学・入社辞退の発生をゼロにする。	3.0	3.5	国公立大学合格3名、高看合格14名である。
	生徒指導の徹底	生徒の自主自律を念頭に挨拶、言葉遣い、身だしなみ、行動等を実践させる。	日常的に指導する。	2.9	2.9	前期は一部徹底できていない面があったが、継続的に指導した。
		生徒の生活面について保護者との連携を確実に進行。	欠席、早退等について家庭・学校間の連絡を確実にする。生徒の気になる点は早期に連絡する。 気づきはその場で明らかにし、改善を図る。	3.0	3.1	家庭訪問を行い、教育相談部、学校外の機関との連携も図って、生徒の個別の課題に対応した。
	学校組織力及び教職員の資質の向上	教職員の意思疎通を一層密にし、学年・学級経営の工夫、改善に努める。		3.1	3.3	